

2026年度 保育講演会

2026年6月9日(火)、保育講演会が開催されました。

講師としてお招きしたのは、講師としてお招きしたのは、石津ちひろ先生です。詩人、絵本作家、翻訳家と石津先生のご活躍は多岐にわたり、回文や早口言葉、しりとりに、なぞなぞ、オノマトペなどを自在に操る「ことばの魔術師」とも称されています。

参加者 34名

日時 2026年6月9日(火)

テーマ ~ことばっていいな!~

講師 絵本作家 詩人 翻訳家 石津ちひろ先生



講師紹介 石津 ちひろ先生

1953年愛媛県生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒業。3年間のフランス滞在を経て、詩人、絵本作家、翻訳家として活躍中。『なぞなぞのたび』(フレーベル館)でポローニャ児童図書展絵本賞、『あしたうちにねこがくるの』(講談社)で日本絵本賞、『あしたのあたしはあたらしいあたし』(理論社)で三越左千夫少年詩賞、2019年に第1回やなせたかし文化賞を受賞。

『おやおや、おやさい』『くだもの だもの』『おかしなおかし』『どきどきキッチンサーカス』『すやすや おやすみ』『ねことワルツを』(福音館書店)、『そらのさんぽ』(岩波書店)、『妖怪オノマトペ』(絵本館)、『まさかさかさま 動物回文集』(河出書房新社)、訳書に『リサとガスパール』シリーズ(ブロンズ新社)ほか多数



「ことばを大切にすることというのは、人生を大切にすること」というお話に、私たちが普段何気なく使っていることばについて改めて考える機会をいただきました。

和やかな雰囲気の中、石津先生の絵本にあることばやエピソードを全員で楽しんだ参加型の講演内容の一部をご紹介します。

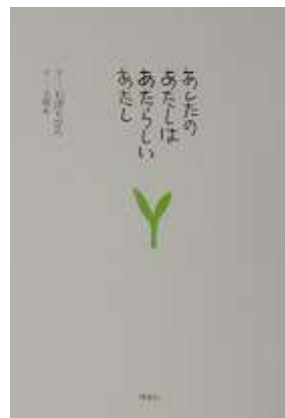
「あした」(詩集『あしたのあたしはあたらしいあたし』より)

一見簡単そうに見えるのに、いざ口にしようとするとき意外と難しい詩「あした」の音読に挑戦。

「あしたのあたしは あたらしいあたし
あたらしいあたし」

なかなかスムーズには読めないけれど、例えばリズムを取ることで上手く言えるようになる、そんなことば遊びを楽しみました。

落ち込んでいたときにこの前向きなことばを口ずさんで元気を取り戻した、というお手紙が先生に届いたこともあるそうです。



『まさかさかさま 動物回文集』

「よるのつうろくふうほうほうふくろうつのるよ」

「しわおおいおわし」

「めもかわいいわかもめ」など、上から読んでも下から読んでも同じことばになる回文は子どもたちと口に出して読んでみたいものがいっぱい！先生にとって初めての作品が高い評価を受けたことで、次の制作への足掛かりとなったそうです。



★参加者一同驚嘆！リクエストから即興で回文を作成

- ・かえる→「よきかえるえかきよ」
- ・くるみ→「みるくとくるみ」
- ・くま→「くまねたらたねまく」

あっという間にすべてを頭の中で組み立ててしまう「ことばの魔術師」の業に、ただただ驚くばかりでした。



『なぞなぞのみせ』

文房具屋さんからのなぞなぞです！

「さいしょは せいたかのっぽ はたらけば はたらくほど すこしずつ せが ちちんでくる さて いったい なあに？」

そう、答えは鉛筆です。

ほかにも薬屋さん、本屋さん、ケーキ屋さんなど、昭和を彷彿とさせる雰囲気のお店街をめぐりながら買い物をするようになぞなぞを楽しむ本です。眺めれば誰もが懐かしくなる「飾らない本」は、その素朴さが広く受け入れられた作品だと先生は感じたそうです。

『妖怪オノマトペ』

日本語にはたくさんのオノマトペ（擬音語、擬態語）があり、オノマトペを使うことで状況を直感的にイメージしやすくなります。

子どもたちが大好きな妖怪も、鬼が走る「どっどっどっどっだっだっだっだっ」、あずきとぎが小豆を研ぐ「ショキショキ」のように、絵にオノマトペがつくことでよりリアルに存在を感じることができるようになります。また、オノマトペには人それぞれの味があります。実際にオノマトペを読み上げた参加者たちの表現力に、会場は大盛り上がりでした。



『おやおや、おやさい』

「にんきもののにんにくきんにくむきむき」

「ラディッシュだんだんダッシュする」

「そろりそろりセロリははしる」

このように韻を踏んだことば遊びは、思わずリズムを取りながら口ずさみたくなります。耳でも感じる事ができることばの面白さが実感できました。

『ねことワルツを』

石津先生とは「ねこ好き」という共通点のあるピアニストのフジコ・ヘミングさんが絵を描いた作品です。フジコさんの温かい人柄に触れた石津先生は「ポロパラポロン」ということばでフジコさんのピアノの音色を表現しました。

この本のタイトルにもなった「ねことワルツを」という詩は、フジコさんが5歳のころに別れた父と最後にワルツを踊った姿を描いた絵から生まれたものです。「こんな絵が描けたのよ」と絵を渡されたときに、ことば遊びだけではこの絵に相応しいものは書けないかもしれないと思ったそうですが、夜中に「アン・ドゥ・トロワ アン・ドゥ・トロワ こんや わたしは ワルツを おどる パパと さいごの ワルツを おどる」ということばが降りてきたとのこと。慌てて書き留めたこの詩がフジコさんの絵にぴったりでホッとした、というエピソードが披露されました。



「こんなふう空ばっかり」（詩集『そらのさんぽ』より）

「こんな風に空ばっかり見よったこと これまでなかったねえ」入院をきっかけに穏やかな時間を過ごすようになった石津先生のお母様は、病院のベッドから眺める空がとても綺麗だと電話で嬉しそうに話していたそうです。先生は、空を見上げて遠く離れた場所にいるお母様に思いを馳せるようになり、そのやり取りを詩に詠みました。今年亡くなられたお母様のベッドの傍らに『そらのさんぽ』が置かれていたことを知り、この詩を書いてよかったと心から思った そうです。先生の地元、愛媛県の伊予弁による朗読は、心に優しく沁みわたりました。

<質疑応答>

◆質問

5歳の娘がオノマトペで表現することが多いので気になります。ことばを大切に、きちんとしたことばで話せるように育てるにはどのように接したらよいでしょうか？

◆回答

私自身も幼いころは、ことばについて周囲から心配されることもありましたが、それでも、ことばを楽しむ気持ちは育っていました。オノマトペをたくさん使う子は、感情表現が豊かだと考えることもできます。一生懸命伝えようとしているからこそその表現方法で、むしろ良いことなのではないでしょうか。

石津先生は「ことばには人を元気にする力がある」「絵本は親子をつなぐ大切な時間を作る」ことをとても丁寧に伝えてくださいました。

そしてこれからも、自分が楽しいと思うことば、リズムカルで何度も繰り返したくなることばを考えていきたいと笑顔でお話を締めくくられました。

ことばの心地よさや面白さを親子で一緒に楽しむことの素晴らしさを学ぶことができた、実りある講演会となりましたことに心より感謝申し上げます。

参加された方より…

くるみ組・もも組 保護者

初めて幼稚園の講演会に参加しました。石津先生や他の保護者の方々の朗読に癒されました。回文やなぞなぞ、オノマトペは言葉遊びや言葉を覚えるのにいいというのは聞いたことがありました。年長の長男は言葉が出るのが遅く、幼稚園や療育の場で一気に出てきましたし、年少の次男は入園前から言葉が出ていて兄と知っている言葉を言い合っています。だからこそ、テーマにある「ことばっていいな!」と感じた時間でした。ありがとうございました!

くるみ組 田口亜弥子

今日は石津先生の素晴らしい講演を有難うございました。ずっと先生のお話かと思いきや、詩を朗読したりクイズに参加したり…思った以上に受講者参加型の講演会で、とても楽しかったです。子供達が赤ちゃんの頃から石津先生の本が大好きで、繰り返し読んでいました。まさか幼稚園に先生が来てくださると思わなかったので、今回このような機会を設けて頂き大変有り難く思います。フジコ・ヘミングさんや渥美清さんの小話等、コンテンツも面白かったのですが、なによりそれらのお話をされている石津先生のお人柄がとても素敵で、期待を裏切らない作家さんで本当に良かったです。サインして頂いた絵本は、我が家の大切な思い出の本としていつまでも大切にしておきたいと思います。有難うございました。

くるみ組 鈴木美有子

先日は、素敵な講演会を企画・開催いただきありがとうございました。最初は少し緊張していましたが、石津先生のお人柄に引き込まれ気づけば皆で詩の朗読をしたり、なぞなぞときをしたり、先生のエピソードや詩の朗読に感動したり大変有意義なひとときでした。言葉は人生そのものである。言葉を大事にしない人は、人生も大事にできないというお言葉を噛み締めて、自分自身が発する言葉も大切にしていきたいなど改めて強く思えました。想像以上に濃密で自分の心が満たされた講演会でした。石津先生、ひつじ会の役員の皆様、先生方、ありがとうございました。

くるみ組・もも組 近藤亜由美

石津先生のお話を聴いて、ことばって楽しいなと感じました! なかでも先生の即興回文は一瞬でできあがり大変驚きました! 講演会後に購入した先生の本を読んで改めて感じたのは、ことばを大切に思っているからこそできる書き方や、ことばがさらに楽しくなるようなリズムカルな表現の仕方でした。私も日常生活の中で、ことばをもっと面白く感じ、もっと大切にしたいな! と考えたとても素敵な講演会でした。ありがとうございました!

ばら組 田坂淑子

本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。講演会の日の夜、夫が娘を寝かしつける際に、石津ちひろ先生の絵本を読み聞かせしました。キッチンで片付けをしていると、寝室から二人の楽しそうな笑い声や話し声が聞こえてきました。先生がお話しされていたように、子ども向けの言葉はわかりやすく、リズムを大切にされているとのことですが、その魅力は娘の心にも深く響いたようです。夫も「言葉のリズムがとても面白い」と大絶賛していました。また、今回の講演で〈オノマトペ〉について学び、日本語が豊かになり、感情表現も豊かになることを初めて知りました。日本語にはオノマトペの種類が非常に多いと聞き、これからは意識しながら会話をしたり、絵本を読んだりしたいと思います。そして、ちひろ先生、あきこ先生から「言葉を大切にすることは、人生を大切にすることと同じ」というお話を伺い、改めて言葉の大切さを実感しました。言葉が豊かになることで感情表現も豊かになり、言葉を大切に使うことで人を大切にすることにもつながるのだと感じました。私自身も日々の言葉を大切にしながら、その大切さを娘にも伝えていきたいと思っています。ありがとうございました。

ばら組 牧野陽子

石津ちひろ先生の素敵なお人柄に触れ、言葉の楽しさや大切さを学ぶことができました。忙しさにかまけて、子供の話を「もうわかったから」なんて遮ったり聞き流したりすることが多く反省しきりです。たくさんお話をしてくれる子供の言葉にもっと耳を傾けたいと思いました。回文の本を買って帰ったところ、長男が面白い! 考えた人すごい! と目を輝かせていました。言葉を大切にすることは、人生を大切にすること、という先生のお言葉をずっと胸に刻んでおきたいと思っています。石津先生をはじめ、講演会にご尽力くださった皆様、楽しくも心温まる時間をありがとうございました。

ばら組 西 咲

講演会は保護者が集まって、ゆっくりと朗読をする、そんな今までなかったことを体験できる心温まる時間でした。

石津ちひろ先生の本を一人で朗読してみた際は言葉が詰まってしまったり、抑揚のないトーンで読んでしまったりしましたが子どもに読む時には不思議で自然とオノマトペを楽しんだり、抑揚がつけられました。わたしが読んだ本に子どもが笑っているとても嬉しく幸せな時間となりました。

《絵本を読む》ということは、親子を自然と笑顔にさせる効果があるんだと再認識させられました。

石津ちひろ先生の最後に仰られた『言葉や文字というのは人生。それを大事にできない人に人生はない。』という言葉にたいへん感動を受けました。

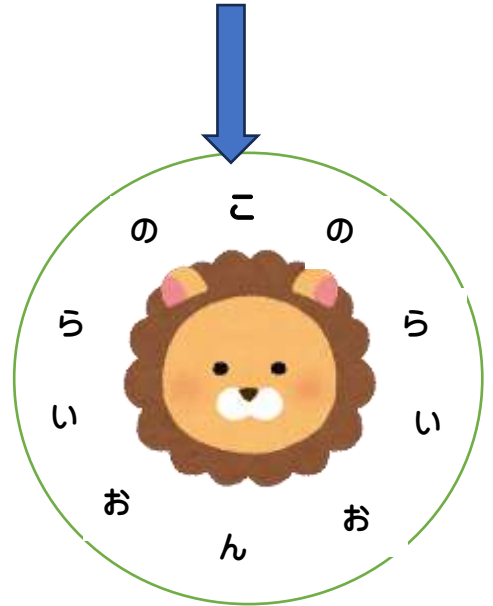
私がよく使う言葉。

『やばい』、『～のやつをとって』など、よく使う言葉。

その言葉を子どもはそうやって使うものだとして認識していると思います。

そして親が使っていたその言葉を子どもそのまま使ってしまう。

私自身、分かってはいるけれど習慣化してしまったものを直していくのは時間がかかります。子育てはたくさん時間がかかります。子どもと一緒にわたしも成長して行こうと思いました。



《らいいん》を使って、その場で回文を作ってくださいました…

ばら組 A.M

子どもたちが2歳の頃、『おやおや おやさい』シリーズの絵本の言葉の流れが面白くて、よく読んでいました。その本の作者である石津先生の講演を今回拝聴することが出来て嬉しかったです。とても柔らかい優しさが溢れた雰囲気、色々な本についてのエピソードをお話して下さったり、会場一体となり、クイズや音読をしたりと楽しく貴重な時間となりました。

回文は小学生の娘が帰ってきてから話すと「学校でもやったことあるよ！」と本を読みながら話しが盛り上がりました。その時の嬉しそうな表情をみて、小学校にあがって、毎日の宿題に音読があり、娘が読むことはあっても、小さい頃のように私が毎日絵本を読み聞かせる事はなくなってきたな。と気付かされました。『読めるから』ではなく親から子への本を通して、言葉を伝える事の大切さについて改めて考えるきっかけとなりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

くるみ組 中島美希

このたびは、素敵なお講演をありがとうございました。

石津ちひろ先生の絵本との出会いは娘がもっと小さい頃のこと、その頃から今も、絵本を通してことばの音やリズムを親子で楽しんでおります。

お話が始まると、絵本に引き込まれるのと同じように、先生のお人柄にも引き込まれ、なぜなぜや朗読に参加させていただいた時間は、とてもあたたかい気持ちになりました。

これからも親子で、先生のことばの世界を味わいながら、ことばを大切にしていきたいと思っております。

くるみ組 もも組 竹田弥生

もともといくつかの本は存じておりましたが、石津先生のお人柄にすっかり魅了された講演会でした。知的でユーモアがあり、詩や絵本を書かれる上でとにかくご自身も楽しむということ大切にされている素敵なお方でした。参加者が実際に声にだして読んでみたり、詩や絵本にでてくる文面の背景や詳しいエピソードを伺うことで深みを感じながら読むことができ、中には共感しすぎて思わず涙がでそうになることもありました。そして、日本語は美しいなと改めて感じる事ができました。『言葉を大切にすることは、人生（自分）を大切にすること』という先生の言葉が特に印象に残っています。自分も、子どもに対しても、より一層言葉を大切にしていきたいと思えたとても豊かな時間でした。

まず、石津先生自身が、とても言葉を楽しんでいるのが印象的であった。そのためか、先生の本はどれもリズムカルで、読んでいてとても楽しい。リズムが楽しいと、読んでいる方も聞いている方もどんどん楽しくなっていく。先生が使う言葉は、何か特別な着飾ったものではなく、日常に溢れる温かい言葉だと感じた。実際にお会いしお話を聞く中で、それは先生のお人柄だと思った。「言葉を大切にすると人は人生を大切にすると」そういった信念を持って言葉を繋ぐ先生の本には、心を温かく包む魔法が込められているように感じた。

そういう感覚に触れて欲しくて、私は息子に初めての詩集を買った。まだ彼には早いかもしれない。でも、そういう温かい言葉は、意味は分からずとも、ほわっとした幸せの記憶として、彼の中にあり続けるだろう。そう願って、私は今日も息子と一緒に本を読む。今日は楽しい講演会をありがとうございました。

ことばの魔術師 石津ちひろ先生。とても楽しそうにお話ししてくださいました。講演会に出席されたお母さんたちは聞くだけでなく、順番に詩を読んだり、なぞなぞに応えたり…と参加しました。順番が来るまではどんな問題が当たるか…ドキドキされていた方もおられるかもしれませんが、有意義な時間を過ごされたことと思います。

子どもたちはおとなや周りの人のことばを聞いています。そして、習得していきます。おとなは、その年齢年齢にあった言葉を使っていきたいものです。現代は「言葉が乱れています」が先生はどう考えられるか」お聞きすると、「言葉を大切にするとは、人生を大切にする事であり、自分を大切にする事、日々を大切にする事だと考えます」と答えてくださった先生の言葉がとてもうなづけました。ことばは自分の考えを伝えるものであり、コミュニケーションに欠かせないものです。ことばを大切にしていきたいものです。

ことばの楽しさを味わってイメージを豊かにすることばあそび。ことばあそびを通して、子どもたちは自然に語彙力や表現力をつけていきます。親子でも楽しくことばあそびができるといいですね。

ことば…子どもの想いがストレートに出るものです。そのことばから育ちを感じる事、自己の存在を主張している事…等感じる事ができます。また、子どもならではの楽しさ、面白さを感じたり、子どもの見方、感じ方を知ることができたりします。また、その時に子どもが言った意味がわからなくても、あとからわかることもあります。子どものことばに耳を傾け、大切にしたいものです。



なぞなぞ なぞなぞ なんのなぞなぞ？

石津ちひろ先生著「なぞなぞのみせ」より

- 1 あめのひに たかいそらからみおろすと
いるあざやかな はなが
くるくるくるくる まわってる
さて いったいなあに？
- 2 はなや きょうりゅう むし さかな
みんな ぎっしり つまってる
わからないことがあったら ひらいてみよう
きっと くわしく おしえてくれる
さて いったい なあに？
- 3 これを ぴたっと はりつけたなら
けがを しても ちよっぴり あんしん
さて いったい なあに？
- 4 おんなじ はこの なか
あかるいいろも くらいいろも
一緒に なかよく ならんでる
さていったい なあに
- 5 ほそくて ながくて
とぐろをまいて へびみたい
だけど ちっとも こわくない
さて いったい なあに？

わかるかな？… 石津先生のつくられたなぞなぞ。とてもいいリズムで読んでいても楽しいですね…